

# 滋賀県の地震

令和8年(2026年)4月

## 目次

### 1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

### 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

### 3 地震一口メモ

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは	-----	6
-------------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」をお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

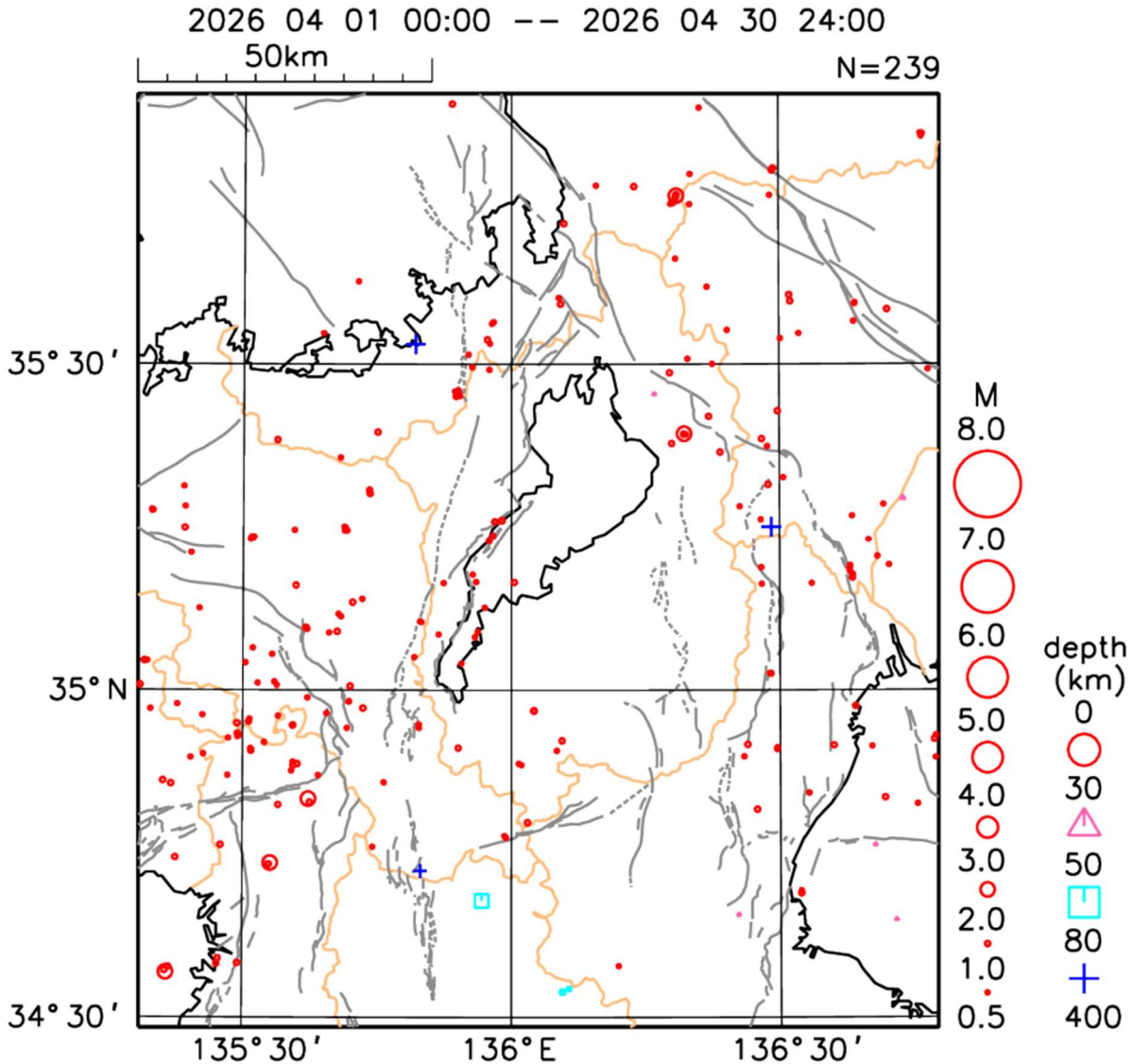
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

## 彦根地方気象台

# 1 滋賀県の地震活動(令和8年4月)

## (1) 震央分布図

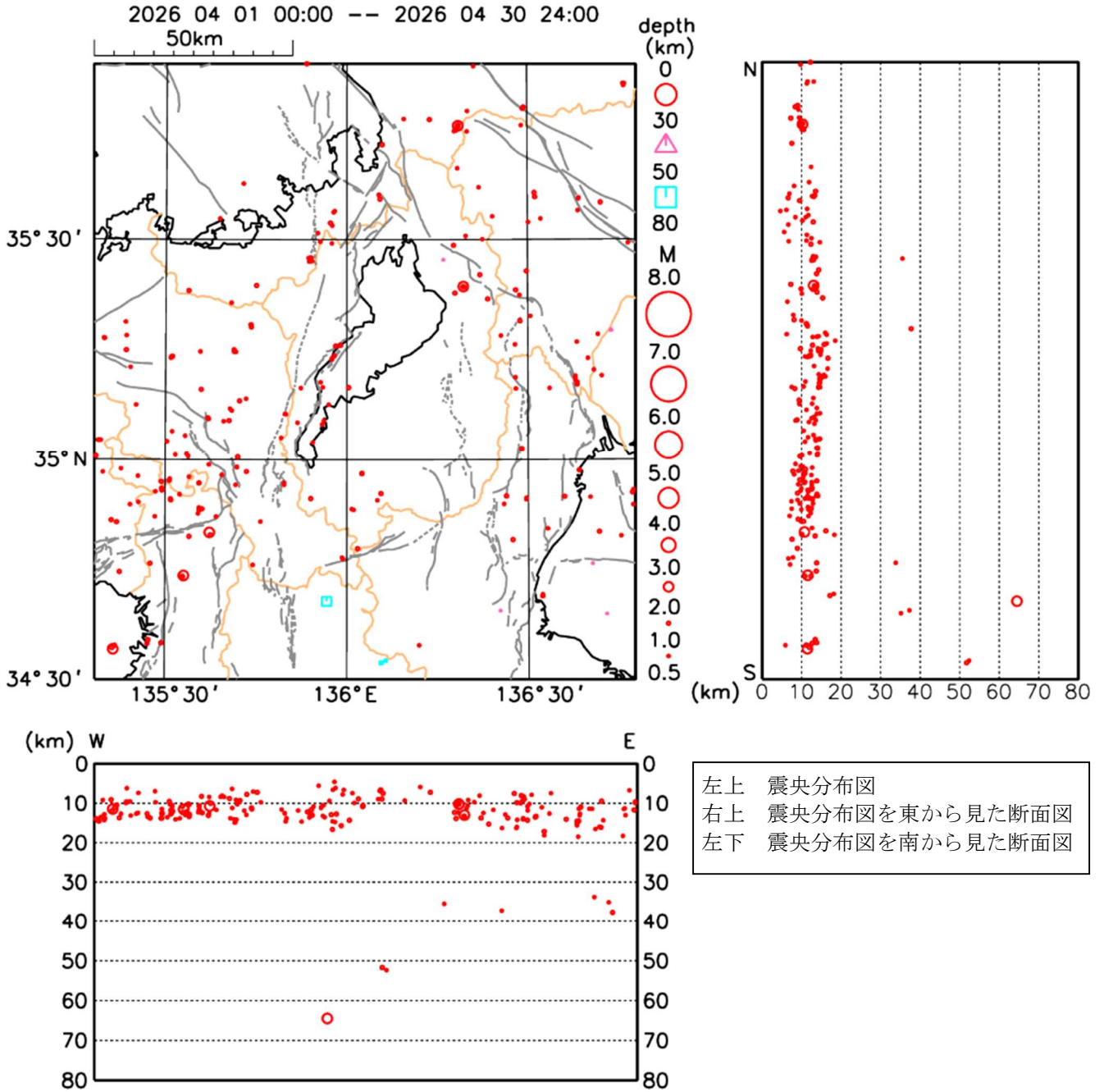


震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。  
 シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。  
 図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。  
 滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。  
 震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

## (2) 概況

4月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は9回(前月15回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした(前月1回)。  
 滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。  
 20日16時52分 三陸沖(図の範囲外)の地震(M7.7): 近江八幡市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

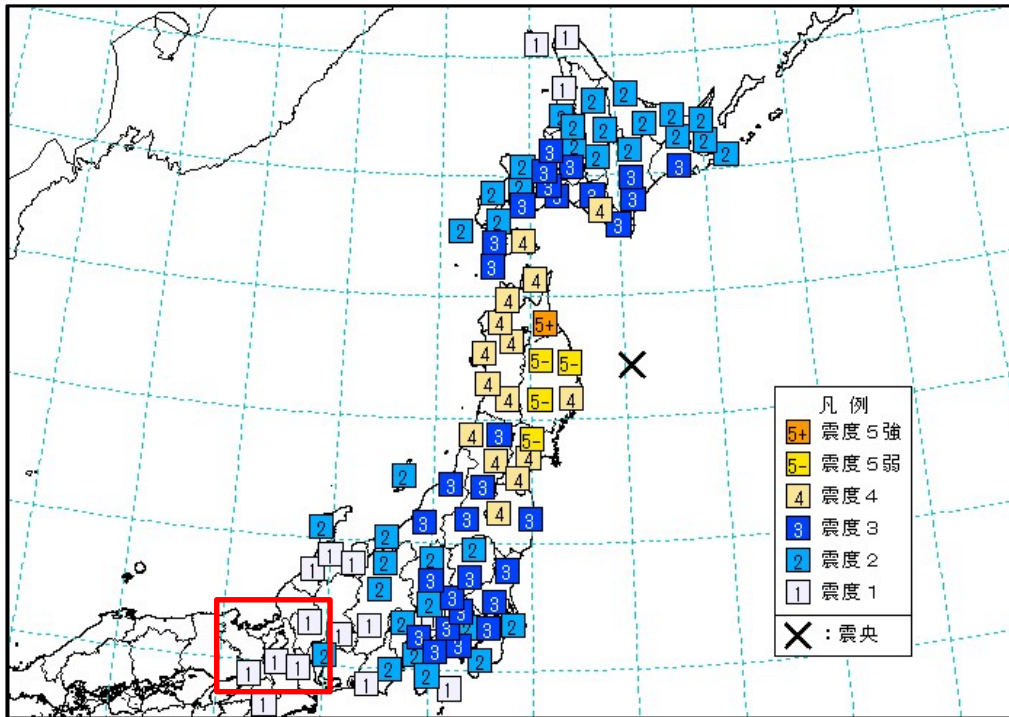
#### (4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2026年04月20日16時52分	三陸沖	39° 50.5' N	143° 09.4' E	19km	M7.7
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : <b>近江八幡市桜宮町</b>				

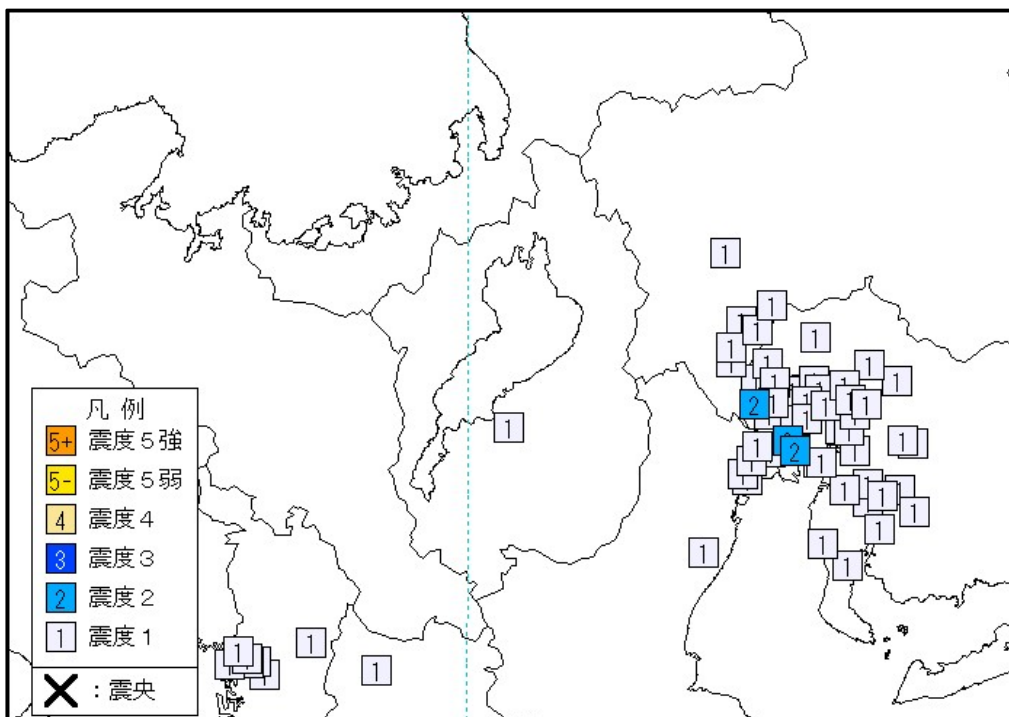
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年4月20日16時52分 三陸沖 (M7.7)



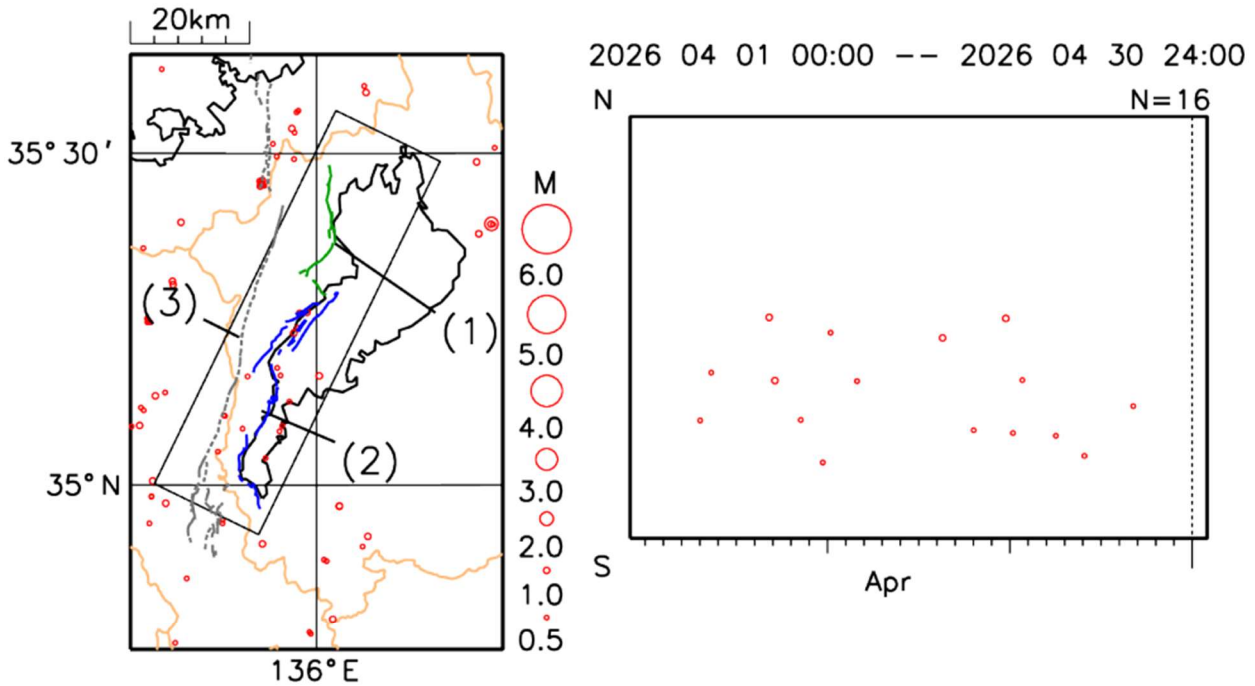
各地域の震度



各観測点の震度 (各地域の震度の赤矩形領域内)

## 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和8年4月)

### (1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ30kmまでの地震)



#### (上) 震央分布図

深さ30km以下の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

#### (右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

#### (右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

#### 琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約59kmで、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部ではM7.1程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率は1~3%と推定されます。

断層帯南部ではM7.5程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ0%と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は2026年1月1日。)

## (2) 概況

4月に震央分布図中の矩形領域内で観測されたM2.0以上の地震は0回(前月0回)で、同領域内の地震で震度1以上の揺れは観測されませんでした。

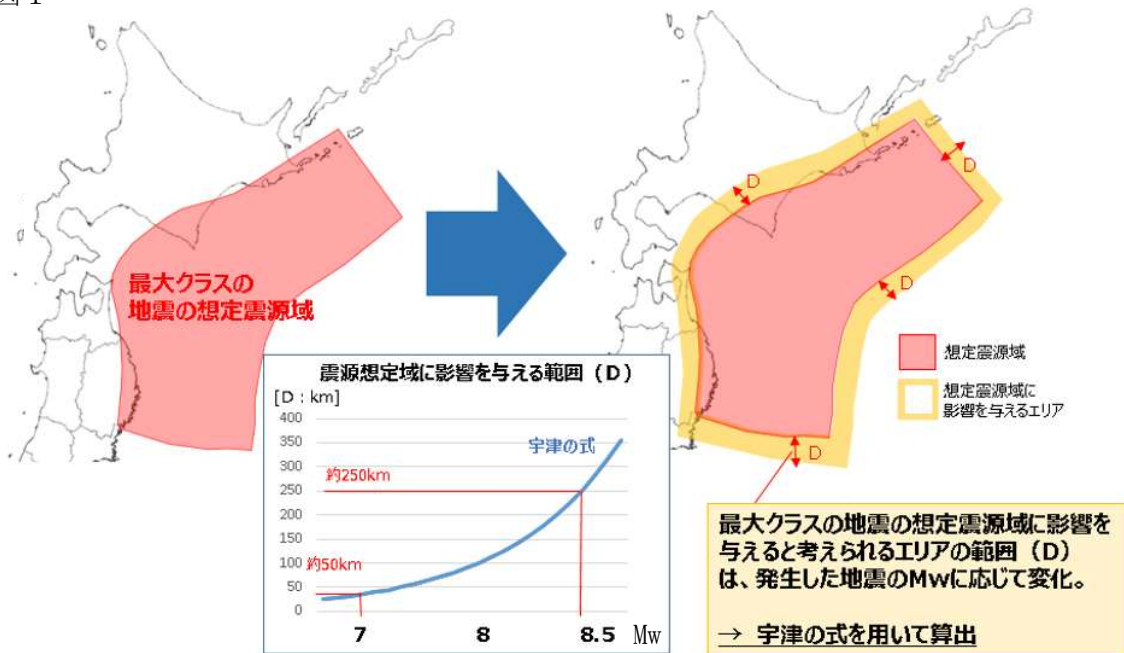
### 3 地震一口メモ

## 北海道・三陸沖後発地震注意情報とは

令和8年4月20日16時52分、三陸沖でマグニチュード7.7の地震が発生しました。気象庁は、この地震の震源位置や規模を精査した結果、モーメントマグニチュード7.4と推定し、同日19時30分に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を公表しました。（令和7年12月9日以来、2度目の発表になります。）

この情報は、千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域及び想定震源域に影響を与える外側のエリア（図1右）でモーメントマグニチュード7以上の地震が発生した場合に、さらに規模の大きな地震が発生する可能性が高まっていることを呼び掛ける情報です。

図1



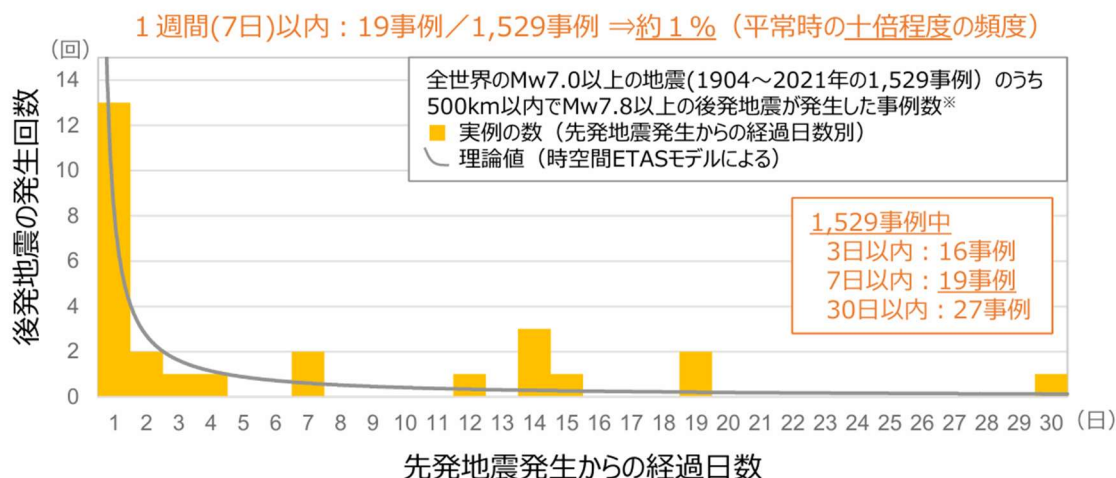
巨大地震の想定震源域と想定震源域に影響を与える外側のエリア

気象庁ホームページ ([https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nceq/info\\_guide.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/nceq/info_guide.html)) の図に加筆

モーメントマグニチュード(以下 Mw と記す)とは、地下の断層のずれ動いた量(ずれ動いた面積×ずれた量×剛性率(岩石のずれ変形のしにくさ))で表される、地震モーメントをもとにして計算したマグニチュードです。一般に、地震発生直後に発表する津波警報や地震情報には、観測した地震波の振幅から計算したマグニチュードを使用しますが、この方法だと即時的に計算できるといったメリットがある一方で、巨大地震に対しては正確に規模を推定できないといったデメリットがあります。Mw は、計算に時間がかかること、ある程度大きな地震でないと計算できないといったデメリットがありますが、地下の断層のずれ動いた量をもとにしているため物理的な意味が明確で、巨大地震に対しても規模を正確に推定できるといったメリットがあり、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発表基準に用いています。

図2

Mw7.0以上の地震に続いて、Mw7.8(M8クラス)以上の地震が発生した事例の発生パターン



※ISC-GEM ver.12.0による。

内閣府ホームページ ([https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko\\_chishima/hokkaido/pdf/hokusan1.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/pdf/hokusan1.pdf)) より引用

図2は、国際地震センター(ISC)による全世界の概ねMw5.5以上の地震のカタログ(ISC-GEM ver.12.0)を用いたデータのうち、Mw7.0以上の地震(先発地震)に続いて、500km以内でMw7.8以上の地震(後発地震)が発生した事例の、先発地震発生からの経過日数に対する後発地震の発生回数のグラフです。全世界の事例を踏まえると、Mw7.0以上の地震発生後7日以内にMw8クラス以上(Mw7.8以上)の後発地震が発生する確率は、概ね百回に1回程度です。平常時は千回に1回程度のため、Mw7.0以上の地震の発生後は、平常時に比べるとMw8クラス以上の地震発生の可能性が相対的に高まっていると考えられたのです。このため、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴い、地震発生から1週間の間、政府としての特別な注意の呼びかけがおこなわれました。

滋賀県は「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された場合に防災対応をとるべきエリアには含まれていませんが、「南海トラフ地震臨時情報」が発表された場合には防災対応をとるべきエリアに全市町が含まれています。巨大地震は、先発の地震がなく突発的に発生する場合があります。日頃からの備えを確認しましょう。

気象庁HP「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nceq/info\\_guide.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nceq/info_guide.html)

内閣府HP 北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ

[https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko\\_chishima/hokkaido/index.html](https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html)

気象庁HP 地震から身を守るために

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/jishin\\_bosai/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/jishin_bosai/index.html)